



「このままでいいのでしょうか」



副会長 池田 順道

9月号の「路」の原稿を依頼されたのは6月の初めです。優秀な事務局の過大な配慮の下、1か月半後という執筆期限をしり目に、締切日ぎりぎりまで手が付けられないでいるのは、小学生の頃、夏休みの宿題を指先まで日焼けした手でなんとかこなしていた時からの性分なのでしょうか。いや、違います。保育園の事務作業に追われて原稿まで手が回らないのです。

それにしても社会福祉法人制度改革以降、決算の時期が1か月先送りになって、余裕ができるかと思えば全くそんなことはありませんでした。特に6月から7月初旬にかけて、保育園の事務量はピークを迎えます。財務諸表入力システム、公定価格加算等認定申請、評議員会関係事務、登記事務、法人調査書、施設調査書、処遇改善等加算Ⅰ・Ⅱの報告と申請、サービス推進費・キャリアアップの報告と申請…。よくもまあこの時期に、これだけの事務手続きを集中できるかと、正直辟易としてしまいます。

毎年6月中旬頃、園庭に、びわがたわわに実ります。そのびわを「何してるの〜?」「がんばって〜」としつこいように繰り返される可愛い声援を受けながら、高枝切りばさみで収穫するのが、法人調査書や施設調査書をはじめとする、様々な報告事務を終えて、デスクワークから解放された私の毎年の役目でした。しかしここ数年、その収穫作業をする時間がすっかり無くなってしまったのです。

私が保育園の事務に携わった頃、パソコンといえば、WindowsではなくてDOS/Vの時代で、私はハードディスクの容量が20MBのパソコンを会計処理のみに使用していました。保護者宛ての文書は「和文タイプライター」を使用し、漢字やひらがな等の文字が入った平たい箱を入れ替えて、ガッチャンコ、ガッチャンコと一文字ずつ打ち込んでいました。間もなくワープロ専用機を手に入れて、重くてアタッシュケースほどの大きさはありましたが誇らしげに外の会議に持って行ったことを思い出します。

その頃は、書類を作る側も、受け取る行政側も、今のように事務に追われてはいなかったように思います。技術が進み、何百倍もの事務処理能力をもったパソコンを駆使していても、業務が楽になるどころか労苦は確実に増えています。そして、事務量も各段に増えています。

でき上がった決算書の細かい数字の桁や列を間違わないように、目を細めてシステムに転記していく作業が「業務省力化の姿」なののでしょうか。「ICT化された事務」なののでしょうか。「でき上がった決算書をそのまま郵送する方がよっぽど効率がいい」とは先輩園長の口ぐせではありますが、言い得て妙だと思うのです。

さあ、そこでです。現状を打開するために、私たちに何ができるのでしょうか。それは、行政に事務量の削減や提出時期の変更等を要望していくことも重要なのですが、それと並行して、新たな入力システムを作ることだと思のです。普段から作成しているあらゆる書類が互換性をもって、ボタンひとつで転記されるなど、そんなシステムを作ることができれば、事務の負担が大幅に減ります。様々な保育園の管理システムが開発される中にあり、技術的には、きっとできることだと思のです。

そのシステム作りを積極的に進めませんか？このままこの先、ジメジメとした梅雨の時期を膨大な事務に追われて過ごしますか？提出する私たちも、確認する行政側も苦しく、今が良い状態だとは決して思えないのです。現在関わっている全ての人が協力して初めて“保育園事務の働き方改革”が進むのです。

びわは職員が採ってくれました。今年もたくさんのムクドリが残ったびわをついばみに来ています。高いところはなかなか採れないもので、いつもより多く実が残っていて、ムクドリはとても喜んでいきます。その少し騒がしい鳴き声が「このままでいいよ」と言っているかのように聞こえてしましますが、きっとそれは私が事務に追われ、憂鬱になっているからなのでしょう。